

令和元年度DMAT 地方ブロック訓練登録フォーム（北海道 ブロック）

## 1. 目的

大規模な被害が想定される十勝地域の地震災害急性期を想定し、DMAT の役割の確認、域内医療機関、行政や民間との連携の確認、拡張施設設置の可能性の検討等を行い、可能な限り多くの負傷者を救護できる体制を構築する。

## 2. 日時

令和元年 11 月 16 日（土） 7 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

11 月 17 日（日） 7 : 3 0 ~ 1 4 : 0 0

## 3. 場所・会場

十勝地域

※活動拠点本部：帯広厚生病院

## 4. 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数

- 参加DMAT 指定医療機関数 23 機関
- 参加DMAT 隊員数 131 人
- 訓練プレイヤー（DMAT）チーム数 26 隊
- 訓練コントローラー（DMAT）数 24 人
- 参加関係機関（関係機関名称または種別）及び参加人数（人数は不明の場合記載不要）
  - ◇ 帯広空港（約5名）
  - ◇ 帯広保健所（約8名）
  - ◇ とかち広域消防局（約22名）
  - ◇ 北海道防災航空室（約3名）
  - ◇ 帯広市役所（約3名）
  - ◇ 帯広高等看護学院（約30名）

## 5. 参加車両、航空機

- 病院緊急車両 0 台
- 消防機関救急車 3 台
- 関係機関車両（消防除く） 0 台（所属）
- 関係機関車両（消防除く） 0 台（所属）
- ドクターヘリ 1 機
- 関係機関航空機 1 機（所属：北海道警察）

## 6. 実施項目（実施した訓練について括弧内に○を入力してください）

- 必要なDMAT 本部の設置と運営

- ◇ (○) DMAT 都道府県調整本部または都道府県保健医療調整本部
- ◇ (○) DMAT 活動拠点本部
- ◇ (○) DMAT・SCU 指揮所
- ◇ ( ) DMAT 域外拠点本部
- ◇ (○) DMAT 参集拠点本部
- (○) DMAT の DMAT 参集拠点への参集
- (○) DMAT 本部及び DMAT による  
医療機関の調査、被害状況の把握
- (○) EMIS による医療機関の被害状況の共有
- (○) 医療機関への必要な支援活動の実施  
(病院支援を行う医療機関の想定：多数傷病者受入、病院避難、籠城)
- (○) 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用
- その他
  - ◇ (○) 現場活動 (救護所)
  - ◇ (○) 現場活動 (救助現場・CSM)
  - ◇ (○) 地域医療搬送
  - ◇ (○) SCU
  - ◇ ( ) 機内活動

7. 訓練参加 DMAT 隊員リスト (別添 1)

8. 参考資料：以下のものがあれば、ご登録ください。

- 訓練時系列 (別添 2)
- 写真 (別添 3)

## 令和元年度DMAT地方ブロック訓練登録フォーム（東北ブロック）

## 1. 目的

新潟県沖を震源とするM8.0クラスの地震（「長岡平野西縁断層帯」最大M8.0を想定）に伴う大規模災害を想定し、東北ブロック各県DMATと関係機関との緊密な連携により被災地における緊急治療、病院支援、広域医療搬送等を迅速に行うことができるよう実践的訓練を実施する。

## 2. 日時

令和元年11月2日（土）8時～16時

## 3. 場所・会場

新潟市・長岡市・新発田市内の災害拠点病院（新潟市民病院、済生会新潟病院、下越病院、長岡赤十字病院、新潟県立新発田病院）、新潟空港、新潟県消防学校、新潟県庁、長岡保健所

## 4. 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数

- 参加DMAT指定医療機関数 75機関
- 参加DMAT隊員数 342人（うち、日本DMAT隊員 322人）
- 訓練プレイヤー（DMAT）チーム数 60隊
- 訓練コントローラー（DMAT）数 51人
- 参加関係機関（関係機関名称または種別）及び参加人数（人数は不明の場合記載不要）
  - ◇ 航空隊（1機関）
  - ◇ 海上保安庁（1機関）
  - ◇ ドクターヘリ（1機関）
  - ◇ 消防機関（5機関）
  - ◇ 県警（1機関）
  - ◇ 日本赤十字社新潟県支部（1機関）
  - ◇ 県医師会（1機関）
  - ◇ 県歯科医師会（1機関）
  - ◇ 災害協定提携先機関（4機関）
  - ◇ 日本DMORT（1機関）
  - ◇ 新潟県葬祭業協同組合（1機関）
  - ◇ 医療系大学（3機関 66人）



## 令和元年度DMA T 地方ブロック訓練（近畿ブロック）

## 1. 目的

滋賀県地震被害調査結果（2014）に基づく琵琶湖西岸断層帯地震（内陸直下型地震）および大規模水害を想定した近畿地方DMA T ブロック訓練の実施を通じ、災害時の医療活動における組織体制の機能と実効性に関する検証を行い、防災関係機関との相互協力の円滑化を図る。

## 2. 日時

訓練：令和元年 11 月 30 日（土）

検証会：令和元年 12 月 1 日（日）

## 3. 場所・会場

滋賀県庁、大津市保健所、草津保健所、東近江保健所、  
滋賀県内災害拠点病院、滋賀医科大学、桂川 S A ほか

## 4. 参加機関等、人数、コントローラー人数

- 参加DMA T 指定医療機関数 85 機関（内、ロジチーム 12 機関）
- 参加DMA T 隊員数 482 人（内、ロジチーム 13 人）
- 訓練プレイヤー（DMAT）チーム数 74 隊
- 訓練コントローラー（DMAT）数 68 人
- 参加関係機関（関係機関名称または種）及び参加人数（人数は不明の場合記載不要）
  - ◇ 県内一般病院（5 病院）
  - ◇ 消防機関（2 機関）
  - ◇ 陸上自衛隊第 3 師団
  - ◇ 西日本高速道路株式会社
  - ◇ 日本赤十字社
  - ◇ 大津市、近江八幡市、東近江市、竜王町

## 5. 参加車両、航空機

- 病院緊急車両 71 台
- 消防機関救急車 0 台（仮想）
- ドクターヘリ 2 機（京滋ドクターヘリ、大阪府ドクターヘリ）
- 自衛隊航空機 1 機（陸上自衛隊第 3 師団）

6. 実施項目（実施した訓練について括弧内に○を入力してください）
- 必要なDMAT本部の設置と運営
    - ◇ (○) DMAT都道府県調整本部または都道府県保健医療調整本部
    - ◇ (○) DMAT活動拠点本部
    - ◇ (○) DMAT・SCU指揮所
    - ◇ ( ) DMAT域外拠点本部
    - ◇ (○) DMAT参集拠点本部
  - (○) DMATのDMAT参集拠点への参集
  - (○) DMAT本部及びDMATによる  
医療機関の調査、被害状況の把握
  - (○) EMISによる医療機関の被害状況の共有
  - (○) 医療機関への必要な支援活動の実施  
(病院支援を行う医療機関の想定：多数傷病者受入、病院避難、籠城)
  - (○) 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用
  - その他
    - ◇ (○) 現場活動（救護所）
    - ◇ ( ) 現場活動（救助現場・CSM）
    - ◇ (○) 地域医療搬送
    - ◇ (○) SCU
    - ◇ ( ) 機内活動
7. 訓練参加DMAT隊員リスト（別添1）
8. 参考資料
- 訓練時系列
  - 患者設定一覧
  - 写真

## DMATブロック訓練登録フォーム《中国ブロック》

## ◆ 目的

山口県内で大規模地震が発生した場合に、迅速・効果的な広域災害医療体制が確保できるよう、中国地方5県のDMAT及び関係機関が合同訓練を実施し、緊密な連携強化を図る。

## ◆ 日時

令和元年10月25日（金）～27日（日）（実働は25日～26日）

## ◆ 場所・会場

## ○DMAT調整本部

山口県庁本館棟10階農林水産部4号会議室  
（山口市滝町1番1号）

## ○DMAT参集拠点

ア 山陽自動車道玖珂PA下り線  
（岩国市玖珂町340）

イ 関門医療センター  
（下関市長府外浦町1番1号）

## ○DMAT活動拠点本部

ア 山口県立総合医療センター2階大会議室  
（防府市大字大崎10077番地）

イ 山口大学医学部附属病院A棟1階カンファレンスルーム  
（宇部市南小串1-1-1）

ウ 徳山中央病院 東館1階介護老人保健施設内デイサービス室  
（周南市孝田町1番1号）

エ 関門医療センター2階女性総合診療センター  
（下関市長府外浦町1番1号）

## ○SCU（航空搬送拠点臨時医療施設：Staging Care Unit）

航空自衛隊防府北基地  
（防府市田島無番地）

## ○局地災害

西日本旅客鉄道株式会社下関総合車両所運用検修センター構内  
（下関市大和町2-15-7）

## ◆ 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数

- 参加機関 106 機関
  - ・ DMAT 関係 77
  - ・ 県内病院（DMAT 指定医療機関以外）17
  - ・ DPAT 医療機関 2
  - ・ 模擬患者関係機関 3（看護師等養成所 3）
  - ・ NEXCO 西日本中国支社
  - ・ JR 西日本
  - ・ 消防機関 2（下関市消防局、防府市消防本部）
  - ・ 自衛隊 2（陸上自衛隊、航空自衛隊）
  - ・ 山口県
- 参加人数 約 600 人（うち DMAT 関係 299 人：別添 1 のとおり）
- 模擬患者数 81 人（上記の内数）
- コントローラー数 45 人（上記の内数）

## ◆ 参加車両、航空機

- 病院緊急車両 13 台
- ドクターヘリ 1 機
- 航空機、ヘリコプター 3 機  
（所属 山口県、陸上自衛隊、NPO 法人ヒースウィング・ジャパン）
- 消防機関救急車、自衛隊救急車 数台

## ◆ 訓練想定

10月25日（金）15時00分、山口県中部の大原湖断層を震源とする地震が発生（マグニチュードは7.0）。

宇部市、山口市の一部で震度7、宇部市、山口市のその他の地区及び防府市、山陽小野田市等県南西部地域各市において広範囲に震度6弱以上を観測。津波の心配はない。

この地震によるインフラ等の情報は概ね以下のとおり。

## (1) 鉄道

県内すべてのJR（新幹線・在来線）は運転見合わせ



## (2) 道路

- ・ 高速道路通行止め。翌朝から緊急車両のみ通行可。
- ・ 県内一般道でも数か所が通行止め

## (3) 停電、断水

- ・ 震度 6 強のエリアは停電、6 弱のエリアで一部停電
- ・ 震度 6 弱以上のエリアにおいて、断水発生（上水道の配管破損）

## (4) 通信

一般回線：不通

携帯電話：当初不通、26日午前8時よりパケット通信のみ回復、音声通話は行えない

衛星携帯電話：すべて正常（県庁とSCUにおいては、携帯パケット通信不安定のため、高速衛星インターネット回線を利用）

## (5) 山口県の対応

山口県庁に仮想県災害対策本部を、仮想県災害対策本部の下に仮想災害救助部を設置し、各二次医療圏の保健所で被害情報・医療ニーズの情報等を収集中。

各地で家屋や建築物が倒壊し、要救助者が多数発生したため、山口県は、山口県DMATの待機を要請するとともに、中国地方各県（鳥取県、島根県、岡山県及び広島県）と福岡県にも、DMATの待機を要請する。なお、余震や道路の安全確認等の状況を勘案し、安全確認が出来た時点で、山口県DMAT及び各県のDMATに対して出動要請を行うこととする。

また、DMAT出動要請後、航空自衛隊防府北基地にSCUを設置し、傷病者の広域医療搬送、地域医療搬送を行う予定としている。

## ◆ 実施項目（実施した訓練にチェック）

## ① 必要なDMAT本部の設置と運営

- 本部（調整本部）
- 本部（活動拠点本部）
- 本部（SCU指揮所）
- 本部（域外拠点本部）
- 本部（参集拠点本部）

② DMATのDMAT参集拠点への参集

- ③ DMAT本部及びDMATによる医療機関の調査、被害状況の把握
- ④ EMISによる医療機関の被害状況の共有
- ⑤ 医療機関への必要な支援活動の実施
  - 多数傷病者受入
  - 病院避難
  - 籠城
- ⑥ 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用
- ⑦ 現場活動
  - 救護所
  - 救助現場・CSM
- ⑧ 地域医療搬送
- ⑨ SCU
- ⑩ 機内活動
- ⑪ その他 ( )

◆ 訓練参加者リスト (別添1)

◆ 参考資料

- 訓練時系列 (別添2)
- 患者設定一覧 (別添3)
- 写真 添付なし

令和元年度DMAT地方ブロック訓練登録フォーム（四国ブロック）

## 1. 目的

- 来たるべき災害への対応能力の向上のためにDMATの組織運用を検証  
DMATの参集とニーズに応じた配分  
県下全域で実施（訓練箇所は調整中）
- 訓練は、DMAT隊員により実施（コントローラー及びプレイヤー）
  - 活動拠点本部等の所属先及び指揮命令系統の確認等を重視した訓練
  - 平成30年7月豪雨災害等を踏まえた県庁・保健所へのロジスティック支援及び保健と医療の総合調整

## 2. 日時

- 実動訓練：令和元年10月19日（土）8：30～17：00  
事後検証会：令和元年10月20日（日）8：30～15：00

## 3. 場所・会場

- （1）災害医療対策部及びDMAT愛媛県調整本部の設置・運営訓練  
会場：県庁内会議室
- （2）参集拠点の設置・運営訓練（4箇所）  
会場：アウトドアオアシス石鎚（高速道路SA）、県立新居浜病院、  
県立中央病院、市立宇和島病院
- （3）活動拠点本部の設置・運営訓練（3箇所）  
会場：県立新居浜病院、県立中央病院、市立宇和島病院
- （4）病院等支援  
会場：臨海部にある医療機関（済生会西条病院ほか）
- （5）保健所ロジスティック支援  
会場：中予保健所
- （6）現場救護所等支援  
会場：鬼北総合公園（鬼北町）

## 4. 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数

- 参加DMAT指定医療機関数 38 機関
- 参加DMAT隊員数 236 人
- 訓練プレイヤー（DMAT）チーム数 44 隊
- 訓練コントローラー（DMAT）数 9 人
- 参加関係機関（関係機関名称または種別）及び

参加人数（人数は不明の場合記載不要）

- ◇ 県医師会（1名）
- ◇ 県薬剤師会（1名）
- ◇ 県看護協会（3名）
- ◇ 県透析医会（1名）
- ◇ 災害時小児・周産期リエゾン（1名）
- ◇ 県臨床検査技師会（2名）
- ◇ 県災害リハビリテーション連絡協議会（1機関）
- ◇ D P A T（1機関）
- ◇ 日本災害医学会学生部会四国支部（D M A S）（2名）
- ◇ 行政（県庁職員・保健所）関係（32名）

#### 5. 参加車両、航空機

- 病院緊急車両 約40台
- 消防機関救急車 11台
- 関係機関車両（消防除く） 0台
- ドクターヘリ 0機（2機予定が雨天にて実働中止）
- 関係機関航空機 0機（3機予定が雨天にて実働中止）

#### 6. 実施項目（実施した訓練について括弧内に○を入力してください）

- 必要なDMAT本部の設置と運営
  - ◇  DMAT都道府県調整本部または都道府県保健医療調整本部
  - ◇  DMAT活動拠点本部
  - ◇  DMAT・SCU指揮所
  - ◇  DMAT域外拠点本部
  - ◇  DMAT参集拠点本部
- DMATのDMAT参集拠点への参集
- DMAT本部及びDMATによる  
医療機関の調査、被害状況の把握
- EMISによる医療機関の被害状況の共有
- 医療機関への必要な支援活動の実施  
（病院支援を行う医療機関の想定：多数傷病者受入、病院避難、籠城）
- 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用
- その他

- ◇ (○) 現場活動 (救護所)
- ◇ ( ) 現場活動 (救助現場・CSM)
- ◇ (○) 地域医療搬送
- ◇ ( ) SCU
- ◇ ( ) 機内活動

7. 訓練参加DMAT 隊員リスト (別添 1)

8. 参考資料 : 四国 DMAT 実動訓練のしおり\_20191018

# 令和元年度九州・沖縄ブロック DMAT 実動訓練 実施記録



## 目次

1	訓練概要	1
	(1) 訓練目的	
	(2) 訓練日時	
	(3) 訓練場所・会場	
	(4) 訓練被災想定	
	(5) 参加機関、参加人数、模擬患者数、コントローラー人数	
	(6) 参加車両、航空機	
2	実施項目	5
	(1) 必要なDMAT本部の設置と運営	5
	(ア) DMAT都道府県調整本部	
	(イ) DMAT活動拠点本部	
	(ウ) DMAT・SCU指揮所	
	(エ) DMAT参集拠点本部	
	(2) 医療機関への必要な支援活動の実施	9
	(ア) 多数傷病者受入	
	(イ) 病院避難	
	(ウ) 籠城	
	(3) 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用	10
	(4) その他訓練	11
	(ア) 現場活動（救護所・救助現場・CSM）	
	(イ) 地域医療搬送	
	(ウ) SCU	
	(エ) 避難所アセスメント	
	(5) 事後検証会	13
3	参考資料	15
	(1) 訓練企画会議（宮崎DMATコア会議）構成員一覧	

(2) アンケート結果（主な御意見）

(3) 訓練企画資料



## 1 訓練概要

### (1) 訓練目的

内陸部地震、新燃岳の噴火、そして南海トラフ巨大地震の発生という複合災害を想定した訓練を実施することで、関係者の「顔の見える関係」の構築や必要技術を習得するとともに、課題の把握及び対応方法に係る検討を行い、今後の災害医療体制の充実を図ることを目的として実施した。

### (2) 訓練日時

令和元年 11 月 10 日（日） 9：00～16：00（図上・実動訓練）（※）

令和元年 11 月 11 日（月） 9：00～13：00（訓練検証会）

※ 訓練時間は上記を基本とし、各会場でそれぞれ設定。（宮崎県庁では午前 7 時 30 分頃より訓練開始）

※ 令和元年度宮崎県総合防災訓練及び緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練と同時実施のため、一部県内DMATは 11 月 9 日（土）も訓練を実施。

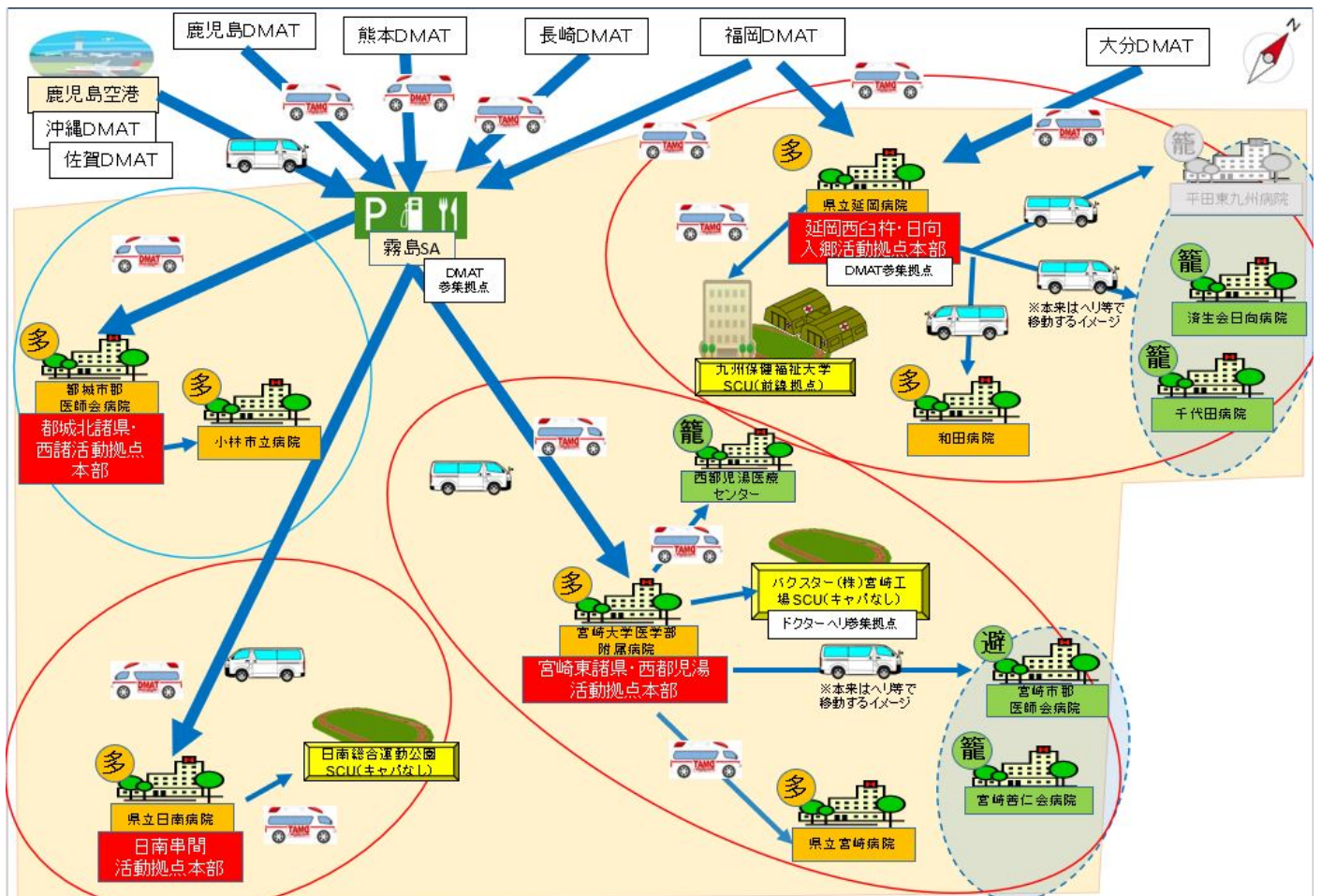
### (3) 訓練場所・会場

#### ① 11 月 10 日（日）

延岡市、門川町、日向市、西都市、宮崎市、都城市、小林市、高原町、日南市、串間市の各訓練会場

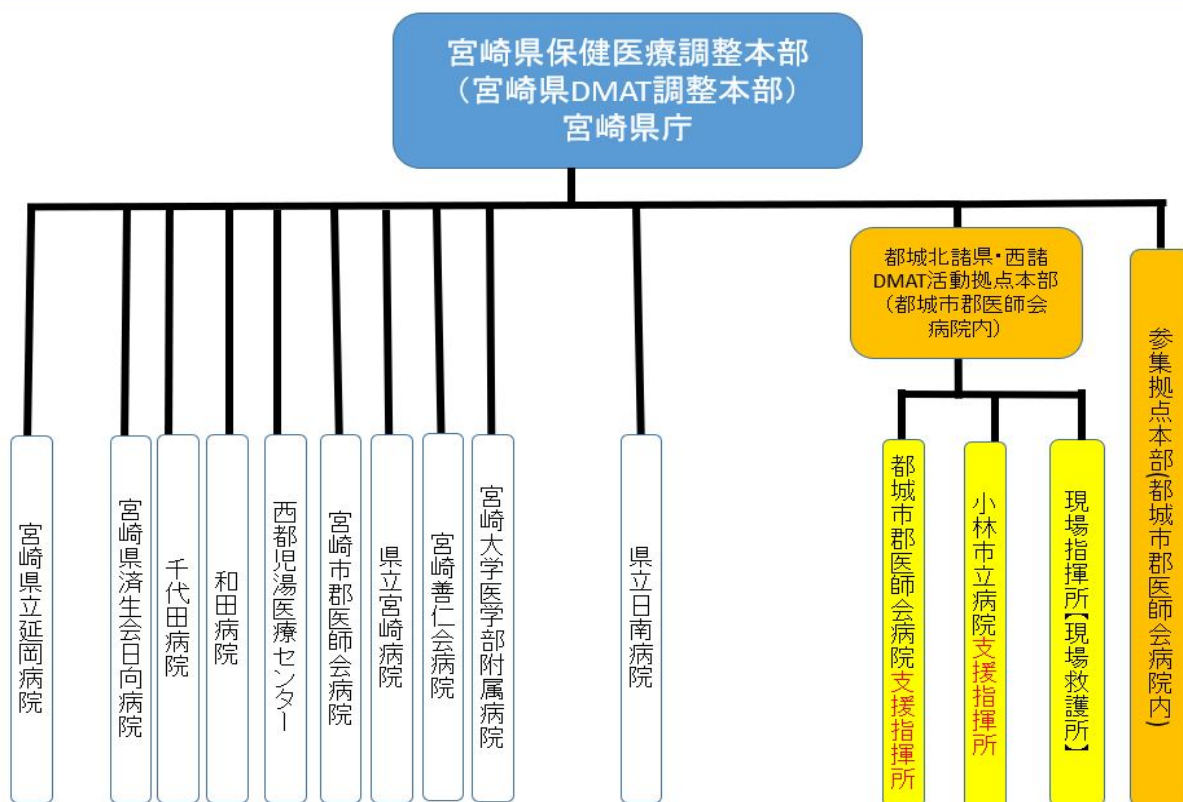
#### ② 11 月 11 日（月）

宮崎市（宮崎県庁職員健康プラザ）



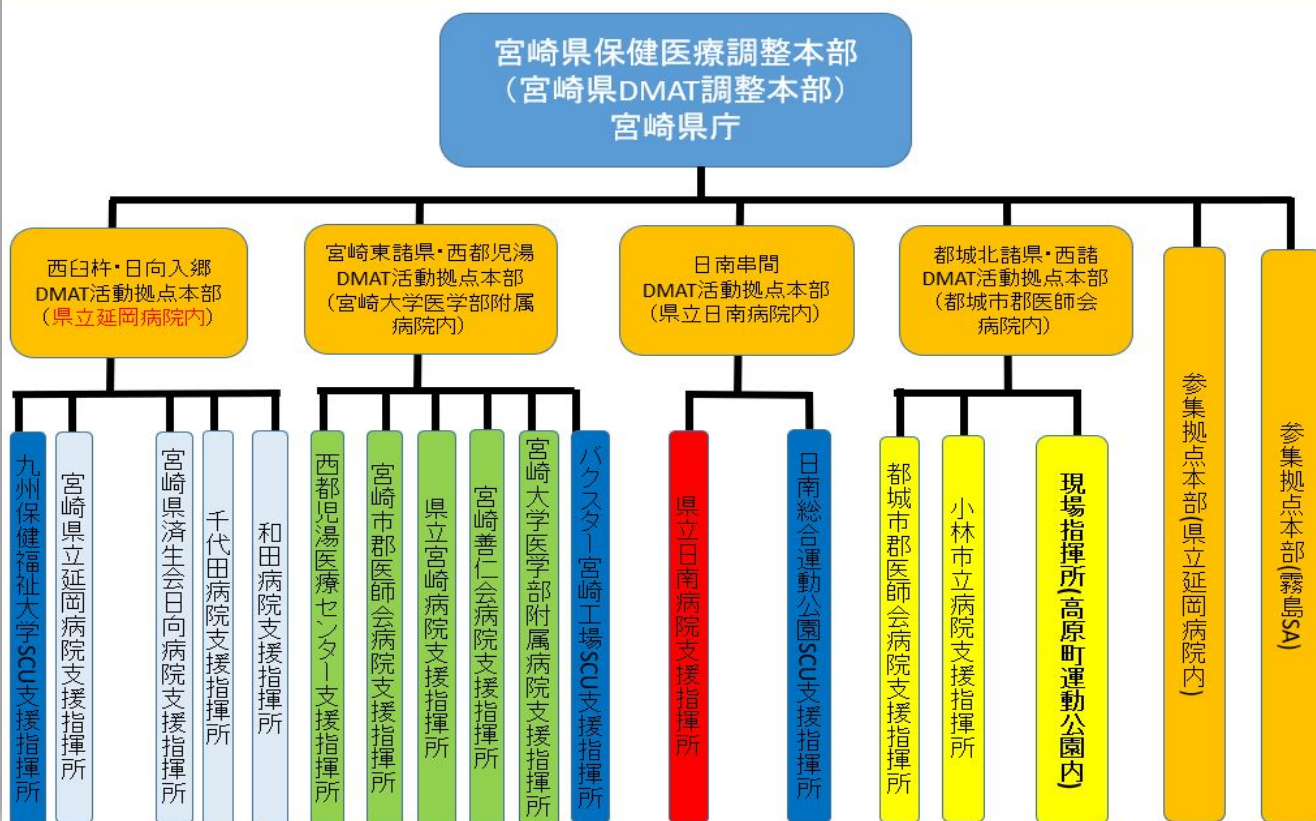
# 宮崎県組織図

11/9(土)9:00～内陸部地震発生後



# 宮崎県組織図

11/9(土)16:00～南海トラフ発生後



## (4) 訓練被災想定

内陸部地震 (※1)、火山噴火 (※2)、南海トラフ巨大地震 (※3) の複合災害

※1 11/9 (土) 9:00 宮崎県南部山沿いを震源とする M7.3 の地震が発生 (高原町で震度 6 弱、都城市・鹿児島県霧島市で震度 6 弱、小林市・えびの市で震度 5、熊本県人吉市で震度 4 を観測)

9:30 にも霧島連山 (新燃岳) を震源とする M7.3 の地震が発生 (高原町で震度 6 強を観測)

※2 上記※1 の地震により、新燃岳では爆発的な噴火が発生し、噴火に伴う降灰が、霧島市、都城市含む山の南東側を中心に広い範囲に及ぶ可能性がある。

※3 同日 16:00 南海トラフ巨大地震が発生し、宮崎市を始め県内で最大震度 7 を観測 (詳細な被災想定は、宮崎県ホームページ (県における南海トラフ巨大地震等に伴う被害想定について) を参照)

## (5) 参加機関、参加人数、模擬患者数、コントローラー人数

(ア) 参加機関 (宮崎県総合防災訓練及び緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練への参加機関も含む)

## ① 市町村等

高原町、都城市 (南部 10 市町協議会)、小林市、えびの市、宮崎市消防局、都城市消防局、延岡市消防本部、日南市消防本部、日向市消防本部、串間市消防本部、西都市消防本部、東児湯消防組合消防本部、西諸広域行政事務組合消防本部、西臼杵広域行政事務組合消防本部、宮崎県内消防団、宮崎県内自主防災組織

## ② 指定地方行政機関

九州管区警察局、九州総合通信局、九州農政局 (宮崎県拠点)、九州運輸局宮崎運輸支局、国土地理院 (九州地方測量部)、宮崎地方气象台、第十管区海上保安本部 (宮崎海上保安部)、九州地方整備局 (防災課、九州防災・火山技術センター、宮崎河川国道事務所)、陸上自衛隊 (西部方面混成団第 24 普通科連隊)、航空自衛隊 (第 5 航空団、新田原救難隊)、自衛隊宮崎地方協力本部

## ③ 指定公共機関

日本赤十字社 (宮崎県支部)、赤十字血液センター、西日本高速道路株式会社九州支社 (宮崎高速道路事務所)、九州電力株式会社 (宮崎支社)、西日本電信電話株式会社 (宮崎支店)、株式会社ドコモ CS 九州支社 (宮崎支店)、KDDI 株式会社 (九州総支社、福岡テクニカルセンター)、ソフトバンク株式会社

## ④ 指定地方公共機関

宮崎交通株式会社、一般社団法人宮崎県トラック協会、一般社団法人宮崎県歯科医師会、一般社団法人宮崎県薬剤師会、公益社団法人宮崎県看護協会、一般社団法人宮崎県 LP ガス協会、一般社団法人宮崎県建設業協会 (小林地区建設業協会)、宮崎県医師会

## ⑤ 病院等医療施設

宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、宮崎市郡医師会病院、宮崎善仁会病院、西都児湯医療センター、県立延岡病院、宮崎県済生会日向病院、千代田病院、和田病院、小林市立病院、都城市郡医師会

病院、県立日南病院、海老原総合病院、国立病院機構宮崎東病院、潤和会記念病院、宮崎生協病院、国立病院機構都城医療センター、協和病院、鮫島病院、国民健康保険高原病院、串間市民病院、愛泉会日南病院、春光会記念病院、日南市市立中部病院、百瀬病院、おび中央病院 等

⑥ 協定締結機関・その他

宮崎 JRAT、宮崎県環境保全事業連合会、一般社団法人宮崎県建築協会、一般社団法人宮崎県測量設計業協会、一般社団法人宮崎県法面保護協会、宮崎県舗装協会、宮崎県倉庫協会、都城トラック団地協同組合、宮崎カーフェリー株式会社、一般社団法人宮崎県産業資源循環協会、宮崎県石油商業組合、一般社団法人宮崎県電業協会、公益社団法人宮崎県柔道整復師会、一般社団法人日本自動車連盟宮崎支部、一般財団法人移動無線センター、NPO 法人宮崎県防災士ネットワーク、宮崎県隊友会、宮崎県歯科衛生士協会、一般社団法人全民患者搬送協会宮崎支局、一般財団法人移動無線センター、八重洲無線株式会社、宮崎市郡医師会、児湯医師会、西都市西児湯医師会、延岡市医師会、都城市郡医師会、西諸医師会、バクスター（株）宮崎工場、厚生労働省 DMAT 事務局、九州・沖縄各県 DMAT、九州・沖縄各県 DPAT、宮崎県災害時小児周産期リエゾン、日本福祉タクシー協会宮崎県支部

⑦ 宮崎県

宮崎県警察本部（小林警察署）、宮崎県防災救急航空センター、西諸農林振興局、小林土木事務所、精神保健福祉センター、宮崎市保健所、中央保健所、高鍋保健所、高千穂保健所、延岡保健所、日向保健所、小林保健所、都城保健所、日南保健所

(イ) 参加DMAT数

475名

(訓練プレイヤー 90隊433名、訓練コントローラー 42名)

県名	DMAT									
	プレイヤー						コントローラー		ドクヘリ	
	DMAT指定医療機関		チーム数		人数		人数		台数	
	一次募集	二次募集	一次募集	二次募集	一次募集	二次募集	一次募集	二次募集		
長崎県	5	0	5	0	25	0	5	-	0	
佐賀県	4	0	4	0	18	0	2	-	1	
福岡県	15	4	15	4	69	17	12	-	0	
熊本県	8	1	9	1	37	4	4	-	0	
大分県	6	1	6	1	29	5	3	-	0	
宮崎県	12	-	28	-	136	-	-	-	1	
鹿児島県	8	0	9	0	54	0	9	-	1	
沖縄県	8	0	8	0	39	0	7	-	0	
<b>合計</b>	<b>72</b>		<b>90</b>		<b>433</b>		<b>42</b>		<b>3</b>	

## ※ その他

- ・指定プレイヤー（DMATロジスティックチーム） 14名
- ・訓練プレイヤー（DPAT） 15隊50名 等

## (ウ) 模擬患者

226名

所 属 機 関 名	参 加 人 数
九州保健福祉大学	95名
延岡市立旭中学校	10名
延岡看護専門学校	50名
日向看護高等専修学校	3名
都城看護専門学校	15名
小林准看護専門学校	14名
宮崎大学医学部	11名
宮崎第一高等学校	4名
宮崎看護専門学校	4名
日南学園高等学校	20名

## (6) 参加車両、航空機



車両、航空機 の別	所属の別	車両数		備考
		患者搬送可	患者搬送不可	
車両	DMAT	39台	39台	
	民間救急（全民救）	10台	—	
	民間救急（福祉タクシー）	2台	—	
航空機	DMAT	3機	—	宮崎県ドクターヘリ、鹿児島県ドクターヘリ、佐賀県ドクターヘリ

## 2 実施項目

### (1) 必要なDMAT本部の設置と運営

#### (ア) DMAT都道府県調整本部

##### ① 訓練場所

宮崎県庁1号館5階 総合対策部室

##### ② 訓練概要

宮崎県DMAT調整本部を立ち上げ、県災害対策本部及び各活動拠点本部からの情報収集、関係機関（DPAT、災害時小児周産期リエゾン、全民救等）との調整等を実施した。



【DMAT調整本部（小児周産期リエゾン含む）】



【DPAT調整本部、全民救リエゾン等】

#### (イ) DMAT活動拠点本部

##### ① 訓練場所

宮崎県立延岡病院（延岡西臼杵・日向入郷医療圏）、宮崎大学医学部附属病院（宮崎東諸県・西都児湯医療圏）、都城市郡医師会病院（都城北諸県・西諸医療圏）、宮崎県立日南病院（日南串間医療圏）

##### ② 訓練概要

県北（延岡西臼杵・日向入郷医療圏）、県央（宮崎東諸県・西都児湯医療圏）、県西（都城北諸県・西諸医療圏）、県南（日南串間医療圏）地区ごとに活動拠点本部を立ち上げ、DMATの受入れ、圏域内の医療機関の被害状況・備蓄状況等の把握、要支援病院へのDMATの派遣、傷病者のトリアージ、治療等を実施した。



#### (ウ) DMAT・SCU

指揮所

##### ① 訓練場所

九州保健福祉大学、バクスター（株）宮崎工場、日南総合運動公園

##### ② 訓練概要

県北（九州保健福祉大学）、県央（バクスター（株）宮崎工場）、県南（日南総合運動公園）、地区ごとにSCUを立ち上げ、地域医療搬送等に係る調整を行った。





【九州保健福祉大学 SCU 指揮所】

【バクスター（株）宮崎工場 SCU 指揮所】

(エ) DMAT 参集拠点本部

① 訓練場所

県立延岡病院、霧島サービスエリア（下り線）

② 訓練概要

県北（県立延岡病院）、県西（霧島SA）に参集拠点本部を立ち上げ、九州各県からのDMATの受付及び派遣先の調整を実施した。



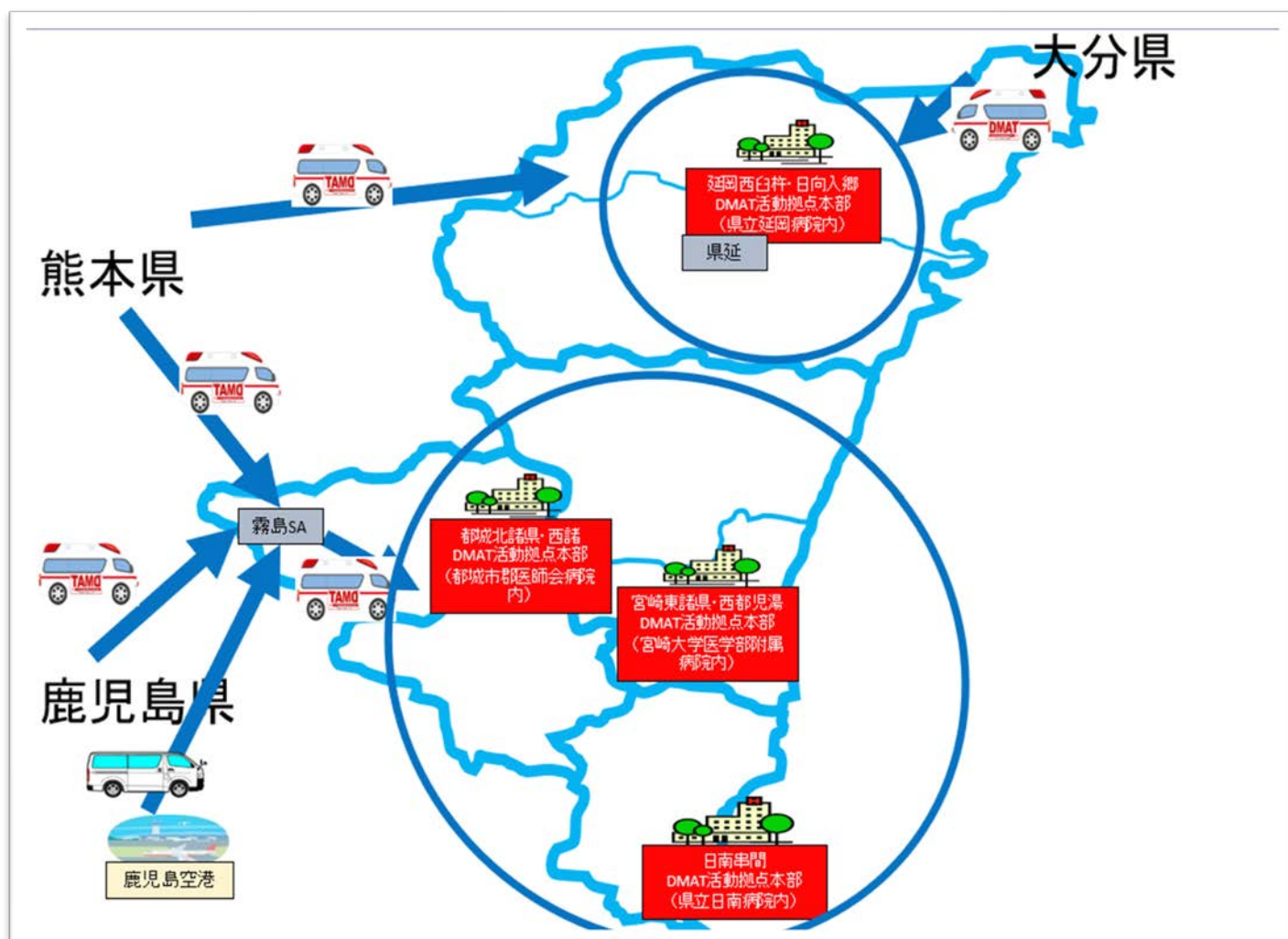
【県立延岡病院DMAT 参集拠点】



【霧島SA（下り線）DMAT 参集拠点】

時	受	内容
8:41	柳江SA	済生会二日市病院着 → 県央 10
8:42	"	済生会福岡総合病院着 → 県央 2
8:43	"	川口病院着 → 県央 3
8:47	"	福岡徳洲会病院着 → 県央 4
8:55	柳江SA 県本部	県央 4 隊派遣報告
9:01	柳江SA	ヨコクラ病院着 → 県央 5
9:04	"	JCHO 藤原総合病院着 → 県央 6
9:05	"	長崎大学病院着 → 県央 7
9:10	"	長崎医療センター着 → 県央 8
9:11	"	矢部広域病院着 → 県央 9
9:15	柳江SA 県本部	県央 9 隊派遣報告
9:17	県本部 柳江SA	今後参集チームの行き先は後述に連絡する 県央 10 4-4 県央 25 4-4 県央 40 4-4 はけした。DMAT調整本部





## (2) 医療機関への必要な支援活動の実施

### (ア) 多数傷病者受入

#### ① 訓練場所

県立延岡病院、和田病院、県立宮崎病院、宮崎大学医学部附属病院、都城市郡医師会病院、小林市立病院、県立日南病院

#### ② 訓練概要

各災害拠点病院において、病院内災害対策本部、DMAT支援指揮所等を立ち上げ、支援DMATの投入によるキャパシティ強化を行い、多数傷病者の受入れを実動・仮想で実施した。



(イ) 病院避難

① 訓練場所

延岡市医師会病院、協和病院（鮫島病院への精神患者搬送（DPA T連携訓練）、宮崎市郡医師会病院

② 訓練概要

津波のハザードマップ上に位置する病院を被災想定病院とし、模擬患者を使った病院避難訓練を実施した。

協和病院から鮫島病院への精神病患者搬送については、DPA T及び全民救との連携訓練を行った。



(ウ) 籠城

① 訓練場所

宮崎善仁会病院、西都児湯医療センター、国民健康保険高原病院

② 訓練概要



津波のハザードマップ上に位置するが、DMATの派遣やロジ支援等により診療機能維持が可能な病院を設定し、籠城支援訓練を実施した。

### (3) 衛星電話・衛星回線・無線等の通信手段の活用

#### (ア) 訓練場所

県内全域

#### (イ) 訓練概要

大規模災害により携帯電話等の通常の通信手段が使用不可という想定のもと、衛星電話による通信訓練を実施した。

また、九州保健福祉大学では固定型、バクスター（株）宮崎工場では車載型の IPSTAR を活用し、衛星回線によるインターネット環境を構築した。

なお、モバイルクリエイイト（株）の協力により、IP 電話による通信訓練も実施した。



### (4) その他訓練

#### (ア) 現場活動（救護所・救助現場・CSM）

##### ① 訓練場所

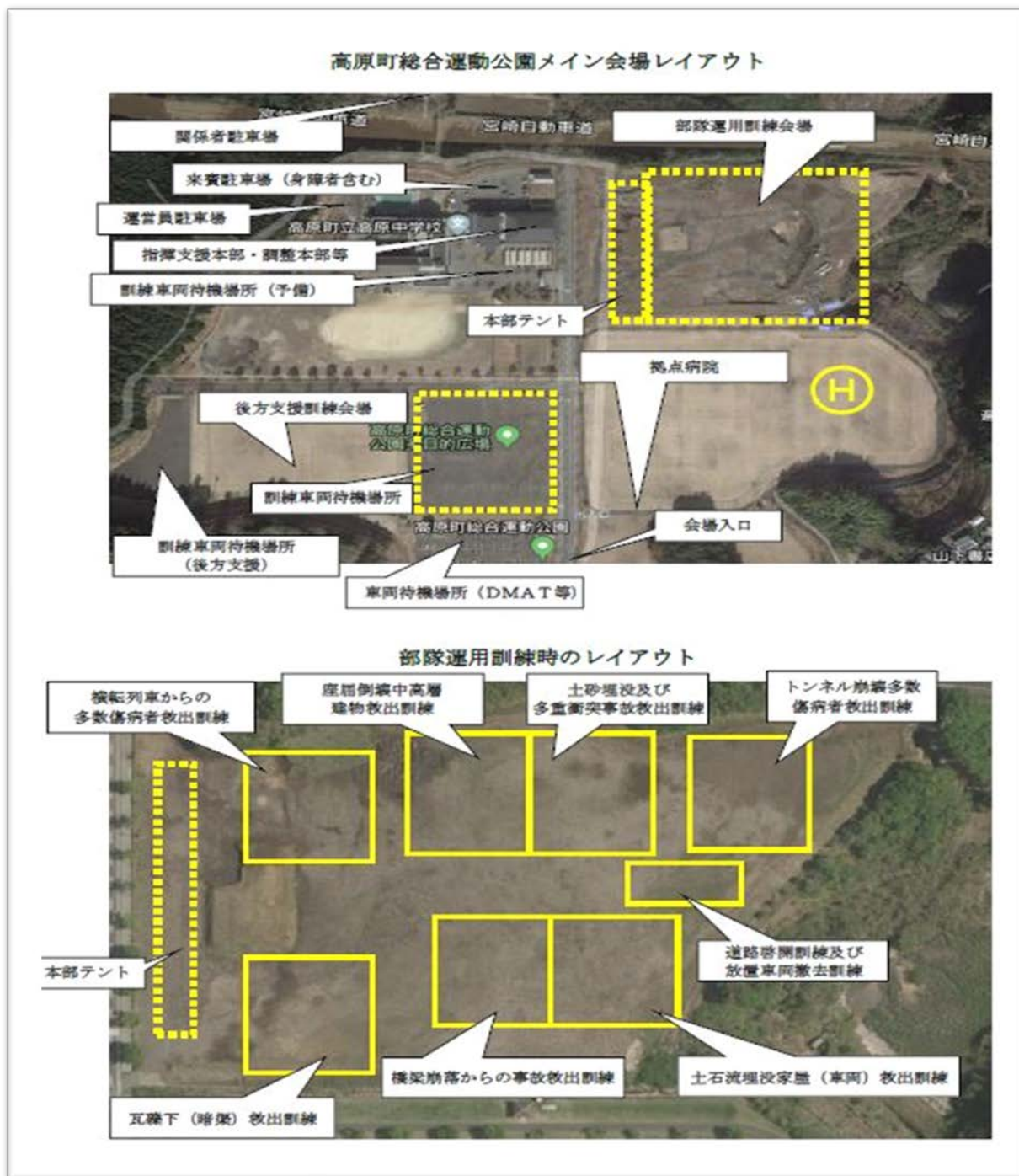


## 高原町総合運動公園

## ② 訓練概要（令和元年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練内での実施）

事故現場（橋梁崩落事故、土砂埋没多重衝突事故、土砂埋没家屋、座屈倒壊中高層建物、瓦礫下等）から救出された傷病者に対し、災害現場の救護所及び訓練会場に設置された仮想病院にて、トリアージ、治療を実施した。

また、米盛病院ヘリ等による患者搬送（人形）を実施した。



## (イ) 地域医療搬送

## ① 訓練場所

県内全域

## ② 訓練概要

医療機関から転送が必要な重症患者等を、被災地内の災害拠点病院、SCU等に搬送した。

陸路搬送については、支援DMAT及び民間救急（全民救、福祉タクシー協会）により、空路搬送については、ドクターヘリによる実機搬送（人形）、自衛隊機による仮想搬送によって、それぞれ実施した。（フライトプラン等は、「令和元年度九州・沖縄ブロック DMAT 実動訓練 航空医療搬送シナリオ&取り決め事項」参照）



## (ウ) SCU（一部再掲）

## ① 訓練場所

九州保健福祉大学、バクスター（株）宮崎工場、日南総合運動公園



## ② 訓練概要

県北（九州保健福祉大学）、県央（バクスター（株）宮崎工場）、県南（日南総合運動公園）、地区ごとに県が整備したSCU資機材を展開し、地域医療搬送等を実施する想定で患者の安定化訓練等を実施した。

なお、バクスター（株）宮崎工場はSCUとして未指定だが、今回訓練においては、県央地区にて指定している航空自衛隊新田原基地、宮崎空港が被災又は周辺道路が寸断される想定とし、代替SCUとしての検証を行ったものである。



## (エ) 避難所アセスメント

## ① 訓練場所

高原町民体育館分館、小林市立病院

## ② 訓練概要

避難所アセスメント用のブース（避難所状況が分かる写真等を掲示）を設置し、派遣 DMAT によるアセスメント、EMIS への避難所状況の入力訓練を実施した。

また、ラピッドアセスメントシートより集約された情報を基に、保健師等による避難所状況の分析・対策立案のシミュレーションについても実施した。

その他、各団体等による災害医療関係ブース設置等による展示型訓練を併せて実施し、県民の意識啓発を行った。

**ガマンしない・させない  
避難所**を体験してみましよう!!!



宮崎県では  
ガマンをしない・させない  
世界水準の避難所  
について  
取り組んでいきたいと考えています  
宮崎県内外10以上の団体で  
ちからを合わせて  
避難所を開設します  
この機会にぜひ  
体験しにお越しください








**おいしい非常食の試食会あります**  
参加するともらえます：OS1、カロリーメイト、災害時の口のおケアグッズ、水ライト

**2019年11月10日12時～14時30分**  
高原町民体育館分館

主催：宮崎県、高原町、宮崎大学地域・精神看護学講座 精神看護学領域  
対象：宮崎県にお住まいの住民の皆様（興味のある方は誰でも）  
費用：無料

参加団体：日本栄養士会災害支援チーム（JDA-DAT）宮崎支部、県社会福祉会災害派遣福祉チーム（DCAT）、災害派遣医療チーム（DMAT）、日本赤十字社宮崎県支部、宮崎大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（宮崎JRIAT）、宮崎県歯科医師会、宮崎県歯科衛生士会、宮崎県薬剤師会、宮崎県臨床心理士会、宮崎県司法書士会、宮崎県柔道整復師会、大塚製薬・コートコシューティカリス事業部・OS1事業部、日本セーテック株式会社  
この企画は九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練の関連訓練としての実施します。配布物の額には限りがあります

## (5) 事後検証会

## (ア) 開催場所

宮崎県庁職員健康プラザ

(イ) 概要


1日目の訓練の結果について、地区別、訓練会場別に分かれて課題や改善点等を検討・協議し、関係者間で情報共有を図った。また、DMAT事務局等による訓練の講評、総評も行われた。

**令和元年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練 事後検証会 次第**

日時：令和元年11月11日(月)  
場所：宮崎県庁職員健康プラザ

- 開会挨拶 9:00~**  
宮崎県福祉保健部長 渡辺 善敬
- 各訓練会場に分かれての振り返り及び発表資料作成 (PPT作成) 9:05~10:05**
  - ※1 2つの拠点で活動したチームは、活動内容のウエイトが高かった拠点で振り返りを行ってください。
  - ※2 人数が多いと議論が進みませんので、同じ拠点の中でも適宜小グループを作成してください。ただし、発表資料は一つにまとめてください。(各グループにコントローラーは最低1名つけるようにしてください。)
  - ※3 各活動拠点本部の発表には、「病院避難」及び「龍城支援」での良かった点、反省点についても盛り込んでください。(ミッションとして発生しなかった場合を除く。)

(休憩 10:05~10:15)



**3 検証内容報告 (各代表者) 10:15~11:45**

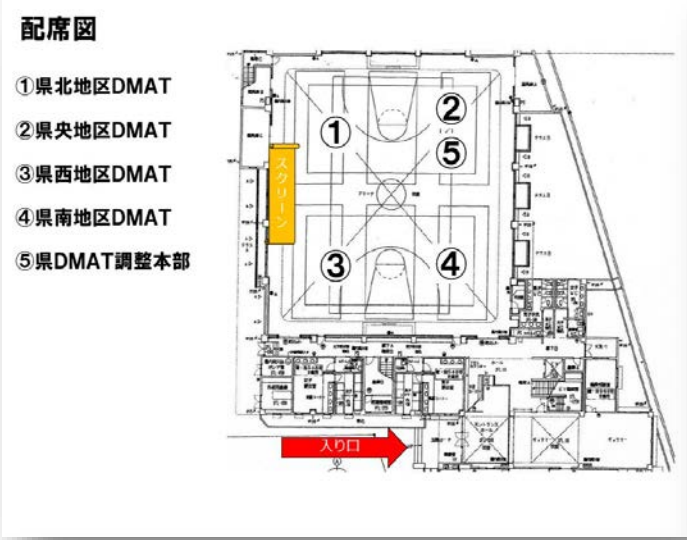
- ・発表者9名(県本部、県東、県北、県南、県西、SCU、参集拠点、ドクヘリ調整、DPAT)
- ・各説明5分+質疑応答5分

【県DMAT調整本部(宮崎県庁)】宮崎大学医学部附属病院 落合先生  
 【県北(延岡西臼杵・日向入郷)地区】県立延岡病院 長嶺先生  
 【県東(宮崎東諸県・西部児湯)地区】宮崎大学医学部附属病院 齋藤先生  
 【県南(日南串間)地区】県立日南病院 市成先生  
 【県西(都城北諸県・西諸)地区】都城市医師会病院 名越先生  
 【SCU(バクスター)】宮崎大学医学部附属病院 川名先生 → 中村口ジ  
 【参集拠点本部(霧島SA)】当日決定 → 佐世保医療センター 岩永先生  
 【ドクターヘリ本部】宮崎大学医学部附属病院 金丸先生  
 【DPATとの連携訓練(協和病院、敷島病院)】当日決定 → 県立延岡病院 長嶺先生

**4 訓練講評 11:45~12:25**  
厚生労働省DMAT事務局 次長 近藤先生

**5 訓練総評及び開会挨拶 12:25~12:30**  
令和元年度宮崎DMATコア会議座長/宮崎大学医学部病態解析医学講座 救急・災害医学分野 教授/医学部附属病院救命救急センター長 落合先生

**6 閉会 12:30**



< 5重々ポイント本部 >

- ・40年-45年要請は多かった?
- ・工務科  
活動に参考工務科が参加していた  
1人本舎に、専任の要請を自己で置いている  
よかったです
- ・DMAT管理  
和由HPは多数依頼受入していた  
撤退-2の増設可能を40年-45年の要請  
は8割は2000年(2000年)
- ・2000年以降HPは被災地支援と2014年-2015年  
今後10年以内  
IT連携が直接連絡取組ができた  
本部に連絡取組が得られた
- ・本舎で2-2の DPATと連携するが2014年  
午後にはEMESの導入ができた  
2014年以降は本舎で連携ができた  
2014年以降は本舎で連携ができた

また、医療現場での活動の重要性が  
(本舎)で分かった。  
宮崎県は有資格者は15%程度  
EMESに頼る  
(本舎)で分かったのは良い  
有資格者の確保(EMES)は有用な  
HPで用意の電話対応(2014年)は  
対応が速く、連携ができた

・40年-45年  
和由HPは15%程度で対応、2014年  
活動は多かった  
有資格者の確保(EMES)は有用な  
HPで用意の電話対応(2014年)は  
対応が速く、連携ができた

・40年-45年  
和由HPは15%程度で対応、2014年  
活動は多かった  
有資格者の確保(EMES)は有用な  
HPで用意の電話対応(2014年)は  
対応が速く、連携ができた

・40年-45年  
和由HPは15%程度で対応、2014年  
活動は多かった  
有資格者の確保(EMES)は有用な  
HPで用意の電話対応(2014年)は  
対応が速く、連携ができた

## 3 参考資料

## (1) 訓練企画会議（宮崎DMA T コア会議）構成員一覧

二次医療圏	所属名（災害拠点病院）	氏名	職種	備考
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	落合 秀信	医師（統括 DMAT）	宮崎DMA T コア会議座長 県央地区訓練企画担当者
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	金丸 勝弘	医師（統括 DMAT）	ドクターヘリ訓練企画担当者
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	齋藤 勝俊	医師（統括 DMAT）	県央地区訓練企画担当者
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	中村 真人	業務調整員	県央地区訓練企画担当者付きロジ
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	温水 きさ子	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎大学医学部附属病院	宮原 史和	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎県立宮崎病院	雨田 立憲	医師（統括 DMAT）	
宮崎東諸県	宮崎県立宮崎病院	小早川 泰彦	業務調整員	県央地区訓練企画担当者付きロジ
宮崎東諸県	宮崎県立宮崎病院	池野 拓也	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎市郡医師会病院	長野 健彦	医師（統括 DMAT）	
宮崎東諸県	宮崎市郡医師会病院	後藤 祐一郎	看護師	
宮崎東諸県	宮崎市郡医師会病院	藤崎 修兵	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎市郡医師会病院	熊谷 泰治	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎善仁会病院	牧原 真治	医師（統括 DMAT）	
宮崎東諸県	宮崎善仁会病院	原田 智樹	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎善仁会病院	吹井 聖太郎	業務調整員	
宮崎東諸県	宮崎善仁会病院	岩下 貴彦	業務調整員	
延岡西白杵	宮崎県立延岡病院	長嶺 育弘	医師（統括 DMAT）	県北地区訓練企画担当者
延岡西白杵	宮崎県立延岡病院	興梠 育美	業務調整員	県北地区訓練企画担当者付きロジ
延岡西白杵	宮崎県立延岡病院	高橋 誠	業務調整員	県北地区訓練企画担当者付きロジ
延岡西白杵	宮崎県立延岡病院	立川 忠憲	業務調整員	
延岡西白杵	宮崎県立延岡病院	長友 俊樹	業務調整員	県北地区訓練企画担当者付きロジ
日向入郷	宮崎県済生会日向病院	黒木 慎治	業務調整員	
日向入郷	宮崎県済生会日向病院	杉田 かおり	看護師	
日向入郷	千代田病院	水野 隆之	医師	
日向入郷	千代田病院	佐藤 厚子	看護師	
日向入郷	千代田病院	福田 将大	業務調整員	
日向入郷	和田病院	松本 亮弥	業務調整員	
西都児湯	西都児湯医療センター	木村 博人	看護師	
西都児湯	西都児湯医療センター	竹田 朋美	業務調整員	
日南串間	宮崎県立日南病院	市成 秀樹	医師	県南地区訓練企画担当者
日南串間	宮崎県立日南病院	佐藤 昭利	業務調整員	県南地区訓練企画担当者付きロジ



都城北諸県	都城市郡医師会病院	名越 秀樹	医師（統括 DMAT）	県西地区訓練企画担当者
都城北諸県	都城市郡医師会病院	白尾 英仁	医師（統括 DMAT）	
都城北諸県	都城市郡医師会病院	前田 潤	業務調整員	
都城北諸県	都城市郡医師会病院	堂村 祐太	業務調整員	
都城北諸県	都城市郡医師会病院	平川 薫	業務調整員	県西地区訓練企画担当者付きロジ
西諸	小林市立病院	島名 昭彦	医師	
西諸	小林市立病院	森 勝久	医師	
西諸	小林市立病院	竹之下 尚人	看護師	
西諸	小林市立病院	福永 幸枝	看護師	
西諸	小林市立病院	猪上 広美	看護師	
西諸	小林市立病院	栗原 律子	看護師	
西諸	小林市立病院	下久保 香織	看護師	
西諸	小林市立病院	三角園 祐司	業務調整員	

## (2) アンケート結果（主な御意見）

## (ア) DMAT調整本部

有意義だった訓練項目	A：DMAT調整本部にかかる訓練全般
理由	A：実際の災害時におけるDMAT調整本部の立ち上げ、病院被害状況のスクリーニング、医療資源・ニーズに関する情報収集、参集拠点並びにDMAT活動拠点本部の指定と指揮系統の確立、参集DMATの配分、医療機関の支援、資機材調整、搬送調整、リエゾンとの調整、SCUの設置指示など、災害の時間経過に応じた活動を行うことにより、より実践的な訓練ができたため。また、活動フェーズが変化した際の情報共有並びに課題抽出のためのミーティングを行い次のステップの活動方針を明らかにしていくことにより、活動の流れがよく理解できた。
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	—
理由	—

## (イ) DMAT活動拠点本部訓練

有意義だった訓練項目	A：延岡病院内参集拠点、活動拠点（実災害時にも使うであろう場所で本部立ち上げから運営まで行ったこと）
理由	A：院内のハード面での確認ができたこと。特に、参集場所と活動拠点本部に距離があることをあまり問題に感じていなかったが、実際の運営時には支障がでたため、良

	い検証となった。また、配置や展開方法をイメージすることができた。DPATとの共同であったが、密に連携を取りながら任務を遂行することの重要性も認識できた。
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	—
理由	—

## (ウ) ドクターヘリ

有意義だった訓練項目	—
理由	—
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	A： 訓練におけるドクターヘリの実働訓練は不要（仮想でもよいのでは）。
理由	A： ドクターヘリを実働させるために事前にフライトプランがきちんと組まれていると、どうしても SCU 立ち上げなど訓練の一部がフライトプランに合わせる形で行わなければならない。すると、実際にそぐわない訓練になってしまう。よって、ドクターヘリを仮想としてしまえば、もっと災害の時間経過に応じた現実的な訓練ができたのではと思う。

## (エ) 参集訓練

有意義だった訓練項目	A： 霧島 SA 参集拠点訓練
理由	A： 受付や参集登録を実際 EMIS で行えたことがよかった。反省としては、統括 DMAT（地元外）、近隣 DMAT（統括外）だった事で両チームが譲り合った点。また、IP 無線機を使用した事で本部とスムーズに連携が図ることができた。 B： DMAT 参集拠点として参集チームの登録、受付作業を行い、本部からの指示に従い参集チームへ活動内容を指示。その後の活動内容、役割を把握し本部と連携しながら必要なところへ派遣できるよう対応した。緊張感もありつつ、混雑しない程度の参集チーム数だった。しかし、もっと多くの DMAT が参集してくることを予想すると不安に思う。
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	A： 参集訓練においては、すでに前日入りしているチームも、訓練開始時にはすべていったん参集拠点に参集し指示を受けるようにした方がよい。（今回の訓練では、高速道路外に仮想の霧島 SA を設定し、そこに参集するようにしても良かったと思う）。

理由	A：今回は、前日から宮崎市内に宿泊している DMAT が参集拠点である宮崎自動車道下り霧島サービスエリアへ参集するためには、いったん小林まで戻りそこから高速道路にのって参集する必要があった。そのため参集拠点をすでに通過したこととして直接活動拠点に向かうこととしたが、その結果、訓練の重要な一部であった DMAT 配分決定に混乱をきたした。
----	---

## (オ) 病院支援訓練

有意義だった訓練項目	<p>A：患者搬送、搬送患者受入</p> <p>B：宮崎市郡医師会病院内の防災訓練に並行して行なわれた DMAT 現場指揮所設置および運用訓練</p> <p>C：津波被害を想定した宮崎善仁会病院における籠城及び患者搬送</p> <p>D：西都児湯医療センターにおける病院支援指揮所運営</p> <p>E：災害拠点病院ではない病院（延岡市医師会病院）が訓練に参加し、複数 DMAT の支援を受け入れた。</p> <p>F：小林市立病院における院内訓練</p> <p>G：国民健康保険高原病院に対する支援</p>
理由	<p>A：他病院から患者搬送を受け入れることで、搬送に来た DMAT や搬送車を県立宮崎病院から大学病院への搬送手段として活用できた。</p> <p>B：DMAT 以外の職員も防災訓練を実施しており、院内災害対策本部の同一敷地内に DMAT 現場指揮所が出来たことで、院内の職員に「外部の人間との災害時の共同作業」を経験させる事ができ、良い緊張感を持って訓練ができたのではないかと思う。また院内 DMAT についても、外部 DMAT と相談しながら業務に当たれたのは良い刺激になった。</p> <p>C：マニュアルに沿って当院の災害対策本部を設置し、各々の役割分担を行うことができたほか、院内初動マニュアルの活用により、DMAT メンバー以外の参加職員にも災害時の院内活動を体験していただくことができ、マニュアルの改善すべき点も確認することができた。また、想定される津波被害による自院ライフラインの有無を検討することができ、患者リストを使用して搬送患者のトリアージを行うなど、組織的な役割分担のなかで活動することができた。</p> <p>D：不足しているライフラインや搬送患者選定とリスト化、籠城から病院避難への活動方針変更のタイミングなど、支援 DMAT と院内 DMAT で協議することができた。また支援 DMAT ロジが活拠と通信をしてくれたため、院内 DMAT としては大変心強く、必要</p>

	<p>な情報をまとめてくれ大変助かり、勉強になった。</p> <p>E： 支援を受け入れる側の病院は、災害拠点病院ではなかったため、このような訓練をしたことがない病院であった。支援が入るといことはどういうことなのかかわかったと思われる。最初に到着した和白病院のリーダーシップにより、患者や傷病者を搬送することができた。</p> <p>F： 他県 DMAT の受け入れを行い、参集 DMAT の動き、立ち位置（誰の指示のもの活動するのか）等が学べた。</p> <p>G： 高原町国保病院の災害対応訓練の中で DMAT 隊として、本部運営に加わった。病院職員と問題を情報共有しながら運営することができた。実際の患者を上の方から担架で避難誘導する体験を実施し、担架での避難誘導の困難さ、危険さを感じた。初めての院内災害訓練に DMAT が加わることで、問題点も見出しやすかったのではないだろうか。他の DMAT チームと役割分担をスムーズに行ない、訓練を実施することができた。</p>
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	<p>A： 訓練前における、活動拠点本部担当者との搬送予定患者リストの共有</p> <p>B： 全体の時呈を合わせた方がよいのではないかと思った。</p>
理由	<p>A： 活拠点本部としては事前に欲しいリストかもしれないが、籠城や病院避難の訓練を行う病院としては、院内 DMAT・スタッフとの搬送患者の選定協議も重要な訓練であることから、訓練当日に行う必要があるため。</p> <p>B： おおまか訓練時程は合わせてあったが、各施設で院内訓練が行われ、一部院内訓練と実働訓練とで合っておらず、ばらつきがあった。傷病者を出すに出せないフラストレーションがあったように思う。ただ、後の検証会においては、傷病者を出すことばかりに気を取られていたが、籠城に切り換える頭も持っていた方が良かったという意見も出ていた。</p>

### (カ) SCU訓練

有意義だった訓練項目	<p>A： 民間の工場（バクスター（株）宮崎工場）を SCU として利用する訓練</p> <p>B： 九州保健福祉大学 SCU 立ち上げ、運営訓練</p> <p>C-E： 参集→拠点本部→SCU の流れ、SCU での診療</p> <p>F： バクスター（株）宮崎工場での SCU 訓練</p>
理由	<p>A： 災害時に活用するための諸事項について検証ができた。（必要な資機材の準備、搬入を含め、問題点があがった。特に、机やイス、ホワイトボードはどうしても自分たちで搬入するしかなく準備に時間が掛かった。また、ヘリの離発着についても普段からある程度整備されている場所でないとなかなか使えないことが分かった。）</p>

	<p>B： SCU 立ち上げは初めてだったので貴重な体験だった。前準備により、支援 DMAT が到着時には準備ができ、スムーズに統括 DMAT に引きつぐことができたのが良かった。その後、体制の変化した後の組織の再構築の難しさも経験することができ、有意義な訓練になった。食堂が使用できない場合として、講義棟 2 での SCU 展開も可能だと考えた。その分部屋を 2、3 部屋展開するため、支援 DMAT 隊は SCU を食堂展開時より必要だと思った。今回は前回までと違う場所（実習室）での SCU 展開となり、担当した診療部門をいかに使いやすく配置できるかを試行錯誤しながら行う事ができた。（反省点は多かったが・・・）</p> <p>C： 派遣の流れ、SCU 活動について体験、理解することができた。参集拠点において指示書を準備していたことは有意義。実災害でも準備が間に合うのであれば、準備しておいてほしい。EMIS 上で参集しつつあるチームに対して派遣先を事前決定できるのであれば、だが、SCU は患者来院とヘリ手配に解離あり。訓練だから仕方ないのか。実機も患者状況に合わせて手配の調整がフレキシブルにできれば実践的になると思う。ヘリありき、ヘリの時間に合わせるように患者を必死に手配されていた。IP 無線は有用と感じた。</p> <p>D： 養成研修以来の SCU だったので、復習する良い機会となった。津波浸水が想定される道路の使用不可や、担当施設が津波浸水により近づけないなど、リアリティーのある訓練と感じた。</p> <p>E： 現在までに SCU 訓練に参加したことがなく、実際のイメージがわいていなかった。今回の訓練で担当することができ、患者やカルテの流れ、他チームとのコミュニケーションの必要性を実感できた。SCU 内の応援も、搬入から搬出まで一連して訓練ができた。</p> <p>F： 訓練により、ヘリが離発着する芝生エリアは舗装されておらずストレッチャーを動かすことが困難であることが判明したり、車両で数分の距離で、冷暖房が完備されている宮崎大学病院からあえて搬出し、バクスターで患者管理する必要性があるのか等、実際に活動したことでの気付きがあり、宮崎県としても収穫があったのではないかと考える。訓練に参加したメンバーも机上で学んでいた SCU 活動の流れを実動で再確認することができ、有意義な訓練であった。時間が長かったことにより、SCU の立ち上げから関わる事ができた。また活動をしながらの休憩を考える機会があった。</p>
<p>不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方が良い）訓練項目</p>	<p>A： SCU 立ち上げ訓練そのもの</p> <p>B： 統括 ID を持たない DMAT 隊による SCU の立ち上げ</p>
<p>理由</p>	<p>A： 必要性が低いのであれば、訓練で行う必要がない。訓練時間の中で立ち上げ、活動まで行うとなると、前もって指示を出す必要があるが、現実にそぐわないとなると、訓練する必要がどこまであるのかわからない。今後 SCU に係る訓練は不要になってく</p>

	<p>と思われる。</p> <p>B： EMIS 入力など行えることが統括 ID の有無で違うため、やはり統括権限をもった DMAT 隊が行うものではないかと考える。また、SCU が立ち上がる前に、九保大 SCU であったにもかかわらず、自然発生患者が搬入されることとなったが、それはほんとに必要だったのか。このことは、事前の訓練設定の問題でもあったのかもしれないが、もっと訓練概要を把握し訓練設定していくべきだった。</p>
--	---

## (キ) 衛星電話、衛星回線等の通信訓練

有意義だった訓練項目	A～B： IP 無線の使用
理由	<p>A： IP 無線については、グループ内のやり取りを傍受することで、活動拠点本部や他の災害拠点病院の状況を把握することができた。</p> <p>B： 衛星電話より聞き取りやすく、音声が拡散されるため、通信担当以外の隊員も内容を一緒に聞きとることができ、通信内容の漏れの不安も無く、隊員同士で協議を行うことができた。</p> <p>C： 無線通信や衛星携帯電話は機器の種類や機能、通信環境、情報伝達の方法が独特で、訓練を機会に積極的に使用して経験を積むことが有事に役立つものとする。音声通信だけでなく、EMIS をはじめとするインターネットによる情報伝達も、どこで、どんな情報が入手、発信できるか把握する必要がある。</p> <p>D： IP 無線を初めて使用し、割と広い範囲で通信できることがわかった。衛星電話、デジタル無線、防災無線電話など災害時に情報通信できる手段が増えるのはよいことだと思う。</p>
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	A： 衛星電話は、一度通信を確認できれば、それ以降は「衛星電話を使用した体」でいいのではないかと。
理由	A： 費用の問題が生じるため。

## (ク) EMIS の活用に係る訓練

有意義だった訓練項目	<p>A： 支援 DMAT の受入</p> <p>B： SCU 等の活動拠点運営</p>
理由	A： EMIS を活用して支援 DMAT（病院支援、患者搬送支援、当院への患者搬送）が受援側の病院に移動している状況等を情報収集するなど、EMIS をモニタリングすることの重要性を認識できた。



	B: SCU などの活動拠点運営には MATTS 運用、組織図作成、クロノロの EMIS 掲載など普段操作することのない EMIS の機能を幾つも使用する。一部の機能は統括 DMAT の ID でしか使用できないものもあり、習熟する機会に乏しい。訓練だけでなく、様々な機会を通じて EMIS の持つ機能に習熟する必要がある。
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	—
理由	—

## (ケ) 緊急消防援助隊との合同訓練

有意義だった訓練項目	A: 実働訓練
理由	A: 実働訓練に参加して、実際の災害に近い形で訓練が行えて良かった。また、実働時のロジとしての活動や必要物品の確認が行えたことも良かった。
不要だと感じた（次年度以降は検討し直した方がよい）訓練項目	—
理由	—

## ※ その他、来年度訓練への追加、運営的な改善要望事項等

項目	内容
訓練企画について	<p>○活動拠点本部レベルの訓練は、企画段階から担当コントローラーが入り、一緒に企画していった方がよい。また、保健所との連携訓練をさらに充実させるために、避難所スクリーニングなども、もっと取り入れていても良いのではと思う。</p> <p>○様々なミッションをこなす必要性は承知しているが、訓練回数やミッション内容からも、全てのミッションに十分に対応するには限界があるのではとも感じている。複数の問題はあるが、例えば A 病院 DMAT の役割は基本的に SCU、B 病院 DMAT は病院支援などあらかじめ決めておいて、そこを重点的に訓練するのはどうか。（このような議論を望む。）</p> <p>○訓練全体像を県として早めに提示してもらえると、それにそった詳細な訓練計画が立てやすいと思う。（できれば土日で完結する訓練を希望。）各施設の訓練内容の検討がもっと充実できたのではないか。</p> <p>○今回の訓練企画を行うにあたり、話し合いできる場がもう少し欲しかった。</p>

<p>早期の開催日程周知、院内訓練との同時実施について</p>	<p>○本年度中（訓練の前年度中）に日程を決定するなど、病院としての参加をしやすいように早めの日程調整をした方がよい。（DMAT ブロック訓練と同時に院内訓練を行うことも大切）</p> <p>○日程、集合時間、訓練終了予定時間について、連絡を早め早めにして欲しい。</p>
<p>その他訓練との分離について</p>	<p>○消防・警察等との共同訓練を密するために、また、シナリオ設定をシンプルにするために県防災訓練とは別に実施して欲しい。</p> <p>○消防側が医療側に求めるニーズと DMAT として訓練すべき項目が異なるため、やはり緊急消防援助隊訓練と DMAT としての訓練は分けてすべきだと思う。それぞれが訓練したい項目に消防側 DMAT 側が応需するような形で行なった方が良いのではないかな。</p> <p>また、消防と医療が協働して訓練する場合の連絡調整ツールや、DMAT 間の衛星携帯電話以外の連絡ツールについても今後検討が必要かと考える。</p> <p>○今後の課題だと思うが、緊急消防援助隊と DMAT の九州・沖縄ブロック実動訓練を、共同で行うのか、別々に行うのか、それぞれメリット・デメリットを検討し、次回以降の訓練計画を立案して欲しい。緊急消防援助隊との協働も重要ではないかと考える。</p>
<p>事後検証会について</p>	<p>○2 日目の内容について検討して欲しい。反省会ではなく、2 日目においても、実動でも机上でもよいので 1 日目と同等の内容の訓練を希望する。</p> <p>○検証会の会場に関しては、あの（体育館という狭い）スペースで別れてやっても声や音が伝わりにくかった。</p>
<p>訓練内容について</p>	<p>○もう少しロジスティックな負荷があってもよかったのでは。（水が足りない場合の想定等）</p> <p>○訓練開始時程の検討（発災直後想定）について、もし自身が他県へ派遣される立場なのであれば、訓練開始時にすでに現地入りしているのではなく、訓練開始（発災）から地元を出発し現地へ入る、という移動も本番同様に行ってみたい。</p> <p>○ DPAT との共同訓練について、継続して訓練を実施すべきである。</p> <p>○物的・人的支援投入フローの検討について、反省会でもあったが、今後は SCU の立ち上げより、被災地に対して物資や人材の投入との流れが有効との事なので、その際の投入フローの検討ができればと思う。</p> <p>○ SCU について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SCU 立ち上げ時に、自施設から活動拠点本部には入らず、直接、現場に行ったが、指示待ちで SCU 運営開始まで時間を要した。次回は、実働のイメージが出来るように、活動拠点本部に行き、立ち上げ依頼を受けてから SCU に入るという形をとった方が、イメージが沸くし、本部との顔が見える関係ができると思う。</li> <li>・ SCU の立ち上げ指示が県調整本部から来なかったため、訓練時間に空白があった。</li> </ul>



	<p>県調整本部の流れとして SCU 立ち上げはすぐには必要ないという判断は理解できるが、SCU 訓練としての空白時間はもったいないため、コントローラーによる調整本部とちがう時系列の調整をしてもらおうとよいのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の想定であれば、やはり自院の本部立ち上げ、籠城 or 病院避難などの判断になると思うので、想定に応じた訓練を行った方が実災害時に病院としても動けると感じた。現状で院内での本部立ち上げなどが行えるかが不安。(特に DMAT 隊員がいないとき)</li> <li>・実際、SCU は立ち上げ指示がでるまで時間を要したが、訓練ということで立ち上げ準備を早めから行っており、支援 DMAT 到着時には立ち上げ完了していた。事前に準備を行っていることも考慮して、SCU 立ち上げ指示を出すの時間等と調整しておいた方がよいかもしれない。</li> </ul> <p>○避難所訓練について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所訓練を行うに当たり、どのフェーズで行うのか。DMAT 本体の訓練と同じ時程で行うとすると難しい。また、避難所訓練を実施するのであれば、もう少し本体訓練との連携が必要。今回は訓練の詳細を決めていなかったため、現場に行ってどうすべきか非常に戸惑った。避難所訓練を行うのであれば、DMAT が何の目的でどのようなことを行うのが明確にあるべきである。</li> <li>・避難所の訓練を行うのであればしっかり部会を作り、避難所に関係する各団体と DMAT ととの訓練概要を共に企画する必要がある。</li> </ul>
通信について	<p>○IP 無線が非常に有用だったので、今後の訓練でも使用し、将来的な配備も検討して頂きたい。</p> <p>○訓練参加団体の通信手段について、共同でやるのであれば、携帯電話など設定を合わせた環境で行うのが良いと思われる。</p>
EMIS について	<p>○なかなか各病院だけでは難しいが、本部立ち上げ時の EMIS 訓練をしたい。</p> <p>○EMIS の改修について、医療資源の把握、対応が重要になってくると思われるため、EMIS 内の医療資源に関する項目の追加・改定を早期に望む。</p> <p>○有床病院・診療所は全て EMIS 上に登録して欲しい。</p>
情報共有ツールの検討	<p>○ Google ドライブでの情報共有について、セキュリティーのロックがかかっており、情報の確認ができなかったことがあった。</p> <p>○活動中の DMAT 隊それぞれが、本部の方針や、検討事項などが常に共有できる状況作りが課題か。掲示板の閲覧であったり、それに代わる情報の共有ツール、LINE グループの活用であったり。</p> <p>○1 対 1 あるいは 1 対多数で、文字媒体をもちいることによって多くの情報を発信・共有する方法を検討すべきと思う。</p>

県内統括 DMAT の育成について	次回宮崎県で訓練が行われる場合には、DMAT 調整本部に入るチームを宮大 DMAT 以外にお願いして、登庁順位 1 位の統括 DMAT が不在の時に災害が生じて、調整本部で指揮が取れる県内統括 DMAT を育成していきたい。
ロジチームの派遣について	本部にロジチームの配置（3 名）があり、リーダー的立場で動いていただいた。本部運営は要であるのに、今回の本部要員の中にも経験の少ない方もいたため、運営面でとても助かると感じた。初動にロジスペシャリストを早く配置していただきたい。

## (3) 訓練企画資料

- ① 県北（延岡西臼杵・日向入郷医療圏）地区訓練企画資料
- ② 県央（宮崎東諸県・西都児湯医療圏）地区訓練企画資料
- ③ 県南（日南串間医療圏）地区訓練企画資料
- ④ 県西（都城北諸県・西諸医療圏）地区訓練企画資料
- ⑤ 航空医療搬送シナリオ